

技能教育を組み込んだ総合的学習についての提言

「若者ものづくりメッセージin前工」と「ものづくり体感学習」に参加して

かわはらだ がくや
河原田 学也

1. はじめに

文部科学省によって平成13年度から導入された総合的な学習の時間は、「児童、生徒が自発的に横断的・総合的な課題学習を行う時間」とされ、特徴としては、「体験学習や問題解決学習の重視、学校・家庭・地域の連携を掲げていることである。」とし、具体的内容としては、国際理解、情報、環境、福祉・健康など学習指導要領で例示されています。

しかし、行政改革のひとつである「三位一体改革」の影響で、教育環境は見直しを迫られています。現状のまま学校や PTA、教育機関ばかりに任せていては、体験学習の内容にも、学習予算にも限界が生じてしまう可能性があると思います。

今こそ児童、生徒のために、様々な知恵を出し合って、地域産業と学校・家庭とが一体となり、より充実した課題学習の時間を構築して行くべきです。

そこで、私は二つのものづくり関連のイベント参加した経験を生かし、総合的な学習の時間にものづくりの要素を加えてはどうかと提案します。「ものづくり」によって、自発的に横断的・総合的な課題学習や地域の連携を実行でき、昨今社会問題化している引きこもりやNEETの解消にも繋がるのではないかと考えます。

ものづくり関連のイベント参加を通して感じた内容や民間企業で新入社員教育に取り組んだ経験を反映した、「技能教育を組み込んだ総合的な学習について」まとめてみました。

2. ものづくり関連のイベントに参加して

(1) 若者ものづくりメッセージin前工[2005/7/13]について

群馬県と群馬県職業能力開発協会、群馬技能士会連合会が主催する若者ものづくり人材育成促進事業のイベントに、株式会社ヤマトの技能五輪「配管チーム」の監督として参加し、意見交換と技能五輪選手の公開練習を実施・指導しました。

当日一緒に実施された、「旋盤チーム」や「メカトロニクスチーム」に比べて、「建築配管」は地味な、ものづくり作業の感がありました。そうであったにもかかわらず、参加した高校生たちは熱心に見学をし、当方の説明にも耳を傾けてくれました。

この事業を通して一人でも多くの高校生が技能に魅力を感じ、技能習得に目覚め、情熱を持って技能職を目指すようになって貰いたいと感じました。

また、小・中学生の前でも同様の技能五輪イベントとして展開すれば、ものづくりや技能に対する早期の啓発になると考えます。

(2) ものづくり体感教室・前橋市広瀬小学校[2004&2005/11/25]について

群馬県と群馬県職業能力開発協会、群馬技能士会連合会が主催する若者ものづくり人材育成促進事業のイベント(ラジオ製作)に、総務省のボランティア(電波適正利用推進員)として参加しました。

広瀬小学校の6年生に、半田付けを中心としたラジオキットの組立作業をしてもらいました。普段目にしない半田付け作業や、抵抗を中心とした電子回路の読図等のものづくり作業を通して、「電波」についての理解を深めてもらう体感教室でした。

男女に関わらず、白煙の上がる半田付けと火傷等に注意し悪戦苦闘しながらの約45分間。完成したラジオのイヤホンから音が出たときの小学生の至福の表情は、皆感動的でした。この事業を通して一人でも多くの小学生が「ものづくり」に魅力を感じ、「技能」というものに興味を持ち、何らかのキッカケになって貰いたいと感じました。

3. 技能教育に携わる立場から

(1) 当社の教育理念について

私が現在勤務している、株式会社ヤマトの技術部・教育センターは、創業者の一人である故柴山大五郎会長によって昭和54年に設立され、26年間にわたり新入社員教育と技能五輪関係を中心に、300名の修了生を輩出してきました。

「技術は嘘をつかない」、「足元を見つめた教育」を基本理念に、学問半分・実技半分で、創意工夫と新技術開発に向く筋金入りの技術者を養成し、ものづくり重視の教育を続けてきました。

当社では、大卒技術系社員を対象に、国家資格である2級配管技能士の受検を義務付けています。鋼管を鋸で切断したり、手動式の工具でねじを立てたり、銅管の半田付け等を行う「配管の原点」と言うべき作業の資格試験です。

本来、技術系社員に要求される業務の内容は、建築設備工事の現場管理です。しかし、管理される側である現場の職人の技能・ものづくりを学ぶ事によって、「足元を見つめた教育」でより確りとした管理業務に繋がる考えから実施しています。

(2) ヤマトテクニカルスクールについて

今年4月、株式会社ヤマト・教育センターは、群馬県知事認可の普通職業訓練校「ヤマトテクニカルスクール」として再スタートしました。

今まで以上に、群馬県主催のイベントに取り組み、群馬県職業能力開発協会、群馬技能士会連合会との連携を強化して、「社会に役立つ企業、教育機関」としてものづくり、人材育成に、技能五輪関係に携わって行くのが目的です。

また、県知事の認可の下、より積極的に地域や学校への連携も視野に入れてより良い企業のより良い訓練校として社会貢献にととめる事が必要であると考えます。

4. 3級技能検定について

(1) 3級技能検定とは

若年者の技能習得意欲を増進させ、技能および職業に関する教育訓練の成果に対する社会一般の評価を高めるために、厚生労働省によって国家資格として、平成15年度より実施されました。

効果としては、若年者の技能離れの防止、若年者の職業意識の啓発、職業に関する適性の早期発見、就業についての動機付け、雇用機会の拡大、キャリア形成等とされています。

実業高校在学中に「技能士」として技能章が与えられ、キャリア形成に取り組める制度は、とても有効なものだと思います。

(2) 3級技能検定に係わる取り組み

平成17年度の3級技能検定の実施は、32職種を数え順次拡大しています。

機械、建設の部門ばかりでなく、フラワー装飾、園芸装飾、和裁や商品装飾など多岐にわたった検定職種で、高校在学中に資格取得が可能であり、検定合格者に対し2級技能検定受検資格も一律に付与されました。

職種の数が多い事は、それだけ「総合的な学習」に技能教育を組み込んだ場合、協賛して貰える業種も増える筈ですし、多ければ多いほど、小・中学生の職業に対する適性の早期発見の選択肢も広がると考えます。

5. 総合的な学習とものづくり

(1) 総合的な学習について

総合的な学習には、本来「自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる。」と、「問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにすること。」と言うねらいがありました。

しかし、息子達の学習内容を例にとってみると、図鑑や百科事典を丸写したり、インターネットの検索エンジンで探して出てきたものをそのまま写して発表する「調べ学習」に終始している様でした。調べ学習ではなく、「主体的、創造的に取り組む態度を育て、や「自己の生き方を考えることができるようにする」にはやはり、企業、団体や地域の協力を仰いだ『ものづくり体感』にシフトすべきであると考えました。

(2) 群馬県独自の技能教育を組み込んだ総合的な学習について

群馬県はかつて、「東洋のランカシャー」と呼ばれ、又「隼戦闘機の中島飛行機」を抱えたものづくり立県でした。そしてその遺伝子(DNA)は、現在も児童・生徒の中に受継がれているはずです。

だとしたら、群馬県独自の技能教育を組み込んだ総合的な学習の時間をフルに活用して「ものづくりのDNA」を呼び起こし、目覚めさせ、発展させるべきです。そしてその学習が結果として、技能の伝承や保存に、ひいては「ものづくり立県・群馬県」に結びつくと考えます。

6. まとめ

技能教育を組み込んだ総合的な学習の時間の方法としては、様々なパターンが構築できると思います。

小学生の場合は、地元の花屋さんや水道屋さん、電気屋さんをお願いして、3級技能検定の課題を、どのように製作するか見学させてもらう。また、全国大会に参加する、様々な職種技能五輪の公開練習や、企業の練習風景を見学するなど。

中学生の場合は、実際に3級技能検定の課題を製作してみる。(この場合、作品が残り、実感が湧いてくる。)レジや、接客作業では得られない、自分の手を使い、道具を使う「ものづくり」を実体験できる。3級技能検定の32職種の中から、自分の好きな、得意な何かを見つける事ができる。3級技能検定の課題作品を持ち帰って、復習(反芻)できるなど。

たしかに「総合的な学習の時間は、NEET 対策の時間ではない。」という意見もあると思います。しかし、子どもの全人的な生きる力の育成と言う観点から考えた場合、少しでも時間を割いて、児童、生徒のキャリア形成が適切になされなければ、いけないと考えます。

様々な「ものづくり」の職業があることを知るだけでも、有効な社会経験ですし、3級技能士と言うツールを活用して地域の企業や会社と連携していく事は、小・中学生の将来にとって貴重な体験学習になると考えます。

最後になりましたが、私が「みやま未来賞」に応募して述べてきた内容が、群馬県独自の総合的な学習の時間について一つの参考意見になれば幸いです。

今後の各部署でのご活躍を期待します。